

十代の医療に対する意識と地元医療の活性化

熊本県立宇土高等学校

要旨

全国で少子高齢化が問題視されている中で、高齢者の方が遠い病院に行かなくても十分な治療を受けられたり、安心して地元で暮らせるための改善策を考え、地元で役に立つために、アンケート採って調査した。

1. 目的

日本全体で少子高齢化が問題視されている中で、地元を少しでも高齢者の方が住みやすい町にしたいと考え、地域医療の面から遠い病院に行かなくても十分な治療を受けられたりと安心して暮らせるための改善策を考え、地元の方の役に立つこと。

2. 方法

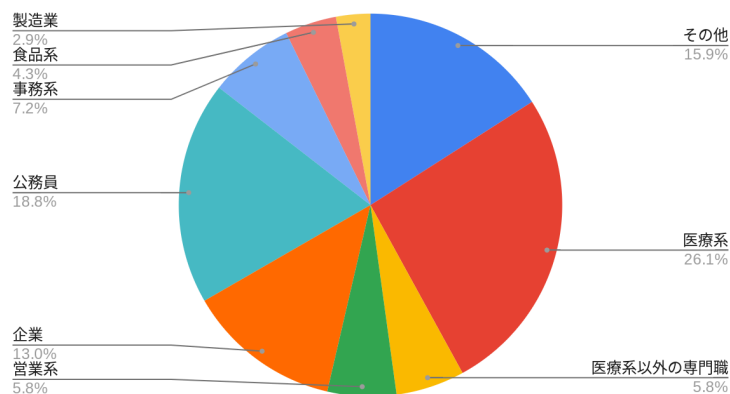
はじめに、十代の医療に対する意識を調査するため、宇土高校全学年にアンケートをとる。アンケートの結果を踏まえて、十代の医療に対する意識の向上と地元医療の活性化をするための改善策を考える。

3. 結果

・アンケートの結果

宇土高生全学年にアンケートを採ったところ、全部で69件の回答が得られた。

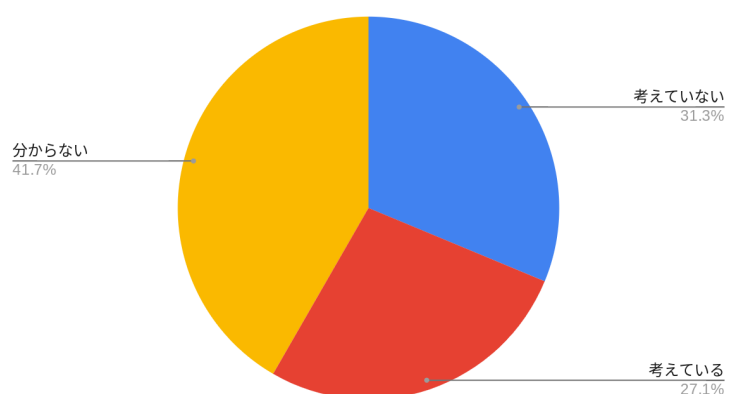
将来就きたい職業の分野



最初に就きたい職業の分野を尋ねたところ、医療系という回答が最も多く全体の約26%を占め、続いて公務員という回答が18.8%と2番目に多い結果となった。

次に地元はどこですかという質問をしたところ、宇城市が33.3%、宇土市が31.3%という結果となった。

地元で就職したいと考えているか



次に地元で就職したいかどうかを尋ねたところ、分からないという回答が41.7%で一番多く、次に考えていないと

いう回答が31.3%と2番目に多いという結果になった。また、考えているという回答は27.1%となった。

最後に、考えていない理由を尋ねたところ、『熊本市内の方が、大きな病院があるから』、『もっと人が多いところに行きたい』といった意見が得られた。

4. 考察

アンケートの結果を踏まえて、最初の『就きたい職業の分野』の質問からは、公務員と医療系が多いという結果になったが、それぞれ、様々な人と直接コミュニケーションをとることができる、福利厚生がしっかりしていて安定しているといった共通点が見つかった。このことから、収入が安定しており、関わる人から直接感謝されたり、意見をもらうことができる職業に就きたい人が多いことが分かった。次に『地元で就職したいと考えていますか』という質問に対して、考えていないと回答した人から得られた『熊本市内の方が、大きな病院があるから』、『もっと人が多いところに行きたい』といった意見からは、人が多いところに行き、様々な人との関わりが多い環境にやりがいを感じたいと考えている人が多いのではないかと推定できた。

これらの2つの考察から、地元医療の活性化を図るための改善策を考えた。

それは、オンライン診療の導入の推進である。現在熊本県内でオンライン診療を受けることができる医療機関は全部で26カ所と少なく、宇土市内には診療可能な機関はない事がわかった。そのため、病院の建設が難しい市町村でも、オンラインによる診療であれば、コミュニケーションを取ったり、状態によっては訪問診療に切り替えることも可能だと考える。オンライン診療に限らず、熊本市内の大きな病院との連携を強化していくことで、より住みやすい町づくりへの実現に繋がっていくと考える。

5. 感想

今回のアンケート調査を行い、就きたい職業の分野や地元で働きたいと考えているか、また、その理由はなにかを知ることができ、宇土高生の現状が理解できた。アンケートの結果を踏まえて、公務員と医療系の職業の共通点や地元医療の活性化を図るための改善策を考えることができ良かった。これからも、本研究をもとに地元医療の改善策の実現を目指していきたいと思った。

6. 参考文献

職業事典

<https://www.jhsu.ac.jp/befriend/column/192/>

オンライン診療が可能な医療機関について

<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/227103.pdf>